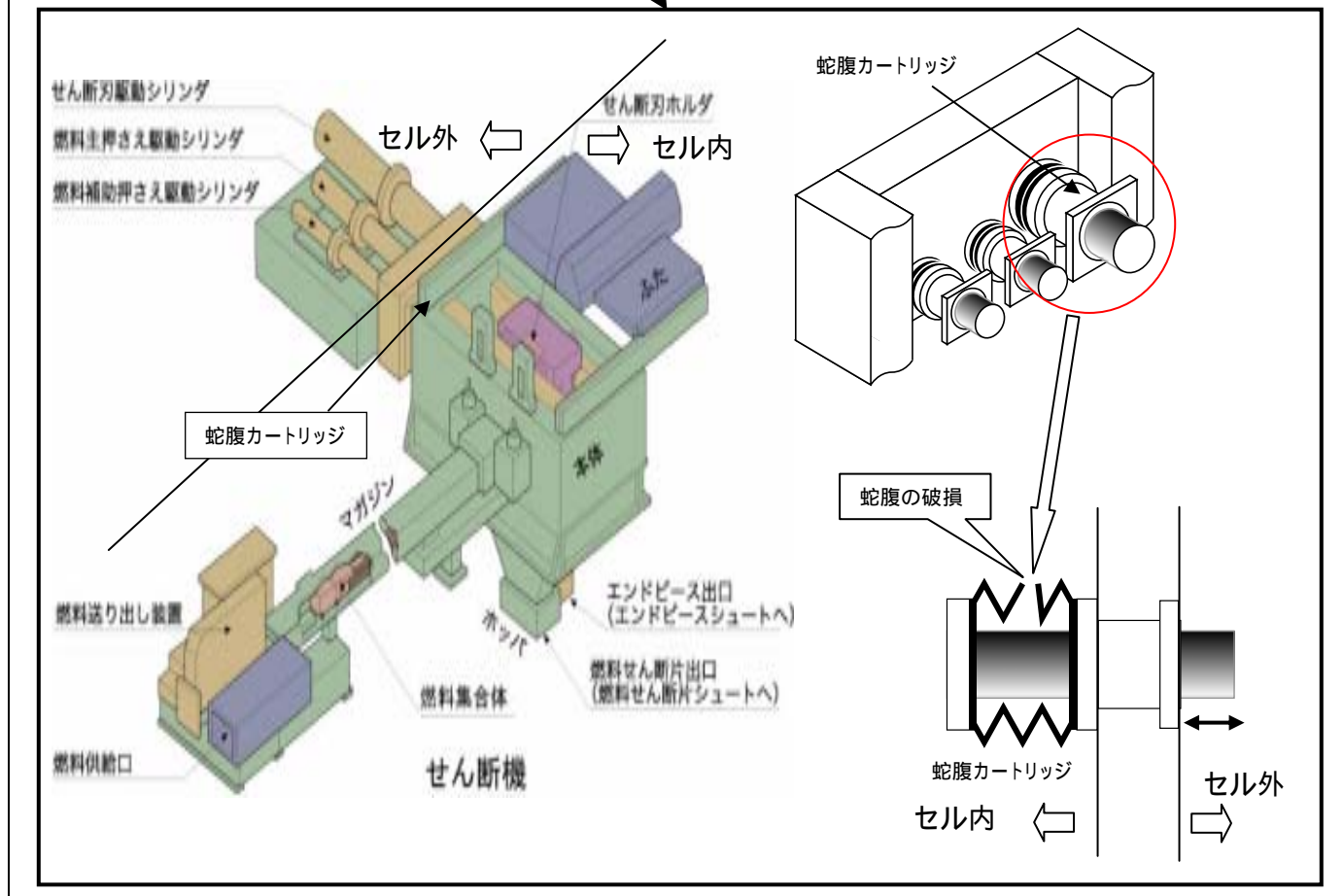
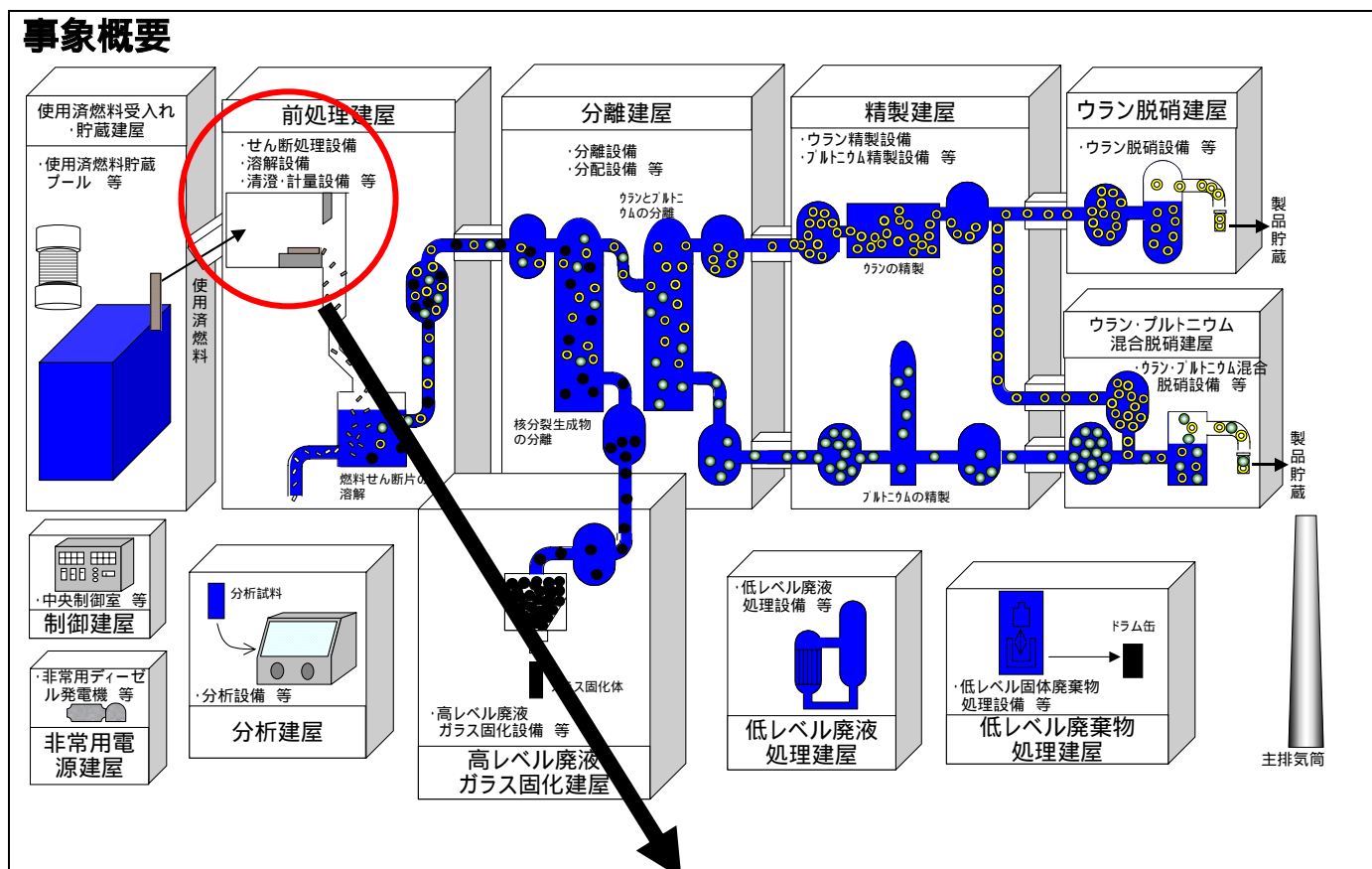


再処理工場のウラン試験時に発生が予想されるトラブル等とその対応(No.7-1)

| | |
|----------------|---|
| 件名 | せん断機蛇腹カートリッジの蛇腹の破損 |
| 事象の概要 | <p>(1) 発生場所: 機器 前処理建屋: せん断機</p> <p>(2) 発生の状況 せん断機の運転中</p> <p>(3) 概要 セル内における蛇腹カートリッジの蛇腹破損により、セル外への汚染のおそれが発生</p> |
| 事象による影響 | <p>(1) 工場外への影響 工場外への影響は生じない。 前処理建屋換気設備及び前処理建屋せん断処理・溶解廃ガス処理設備が稼働しているセル内での事象及びそれに伴う復旧作業であり、放射性物質の放出等、工場外への影響は生じない。</p> <p>(2) 安全性への影響 安全上の問題は生じない。 蛇腹内圧力警報により既にせん断機は停止しているため、直ちに養生等の措置を講じることで、これ以上の事象の進展はなく、安全上の問題は生じない。</p> <p>(3) 作業員への影響 作業員への影響は生じない。 蛇腹の交換作業は、セル外からの遠隔操作なので、作業員への影響は生じない。</p> <p>(4) 他工程への影響 下流の工程の運転に影響が生じる。 せん断が停止することにより、前処理建屋内の溶解槽以降の工程の運転に一時的に支障をきたすが、さらに下流の分離建屋以降の工程は、前処理建屋と分離建屋の間に設置されている一時的な貯留槽(計量後中間貯槽)の残液量で運転継続の可否を判断する。</p> |
| 対応の概要 | <p>(1) 蛇腹破損箇所を確認する。</p> <p>(2) せん断刃ホルダー台車、主燃料押え装置 / 補助燃料押え装置のどちらの蛇腹を交換するか確認後、保守手順に従って交換する。</p> <p>(3) 定められた操作手順に従い運転を再開する。</p> |

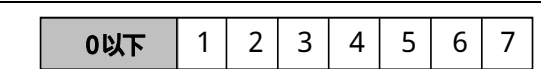


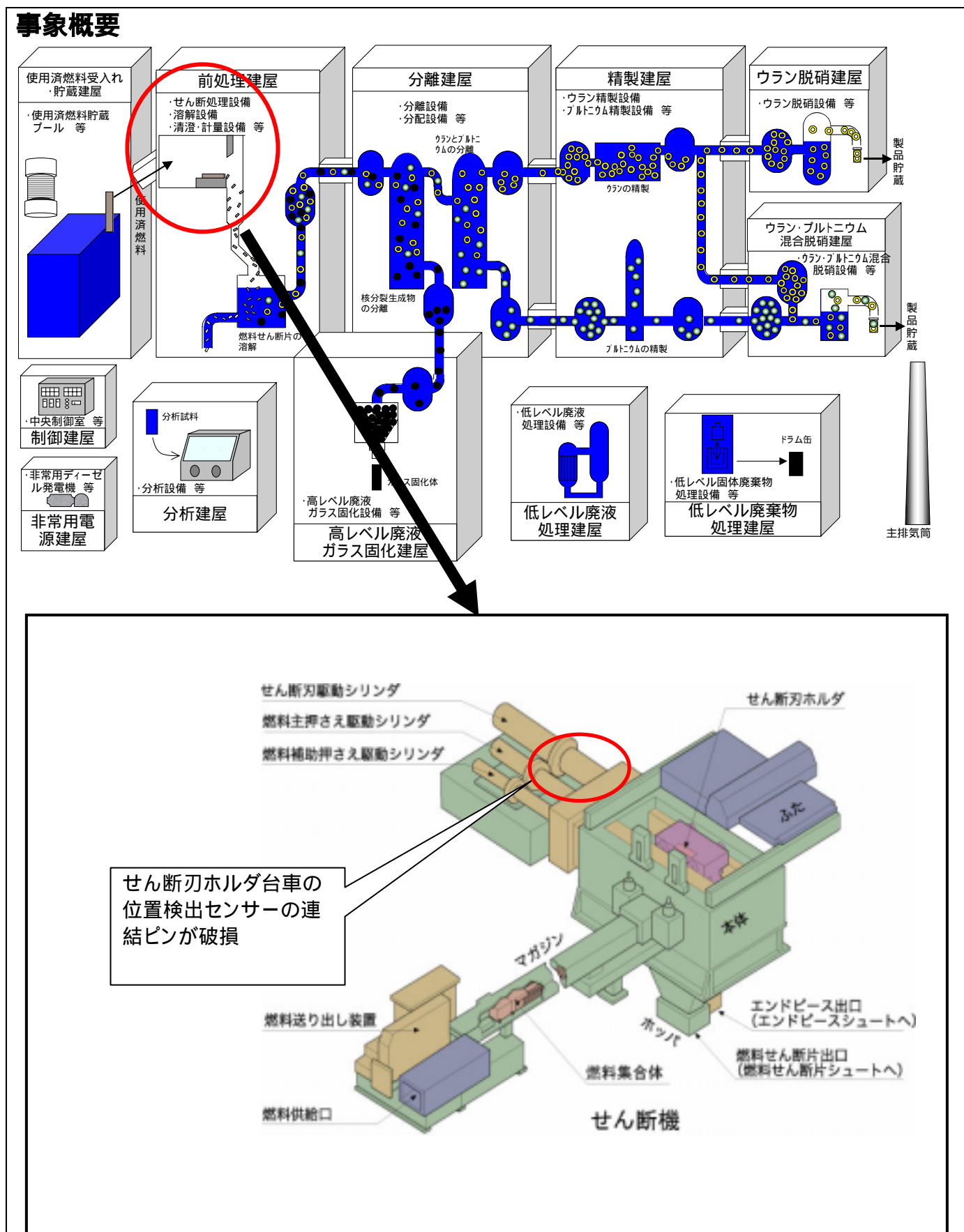
| | | |
|------|--------------------|--|
| 公表区分 | 翌平日に公表(ホームページへ掲載) | |
| 対応区分 | (a) 運転継続しながら復旧 | 国際評価尺度 (INES) のレベル 日本原燃による評価: レベル0以下 |
| | (b) 運転システムを切り替えて復旧 | |
| | (c) 当該機器を停止して復旧 | |
| | (d) 当該設備を停止して復旧 | |
| | (e) 影響範囲の設備を停止 | |

国際評価尺度 (INES) のレベル: 0以下, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7

0以下 (レベル2以下は工場外への影響はない) → 放射能物質の外部放出 (工場外への影響) → 放射能物質による汚染、被ばく等 (工場内への影響) → 運転制御範囲からの逸脱等 (多重防護の劣化)

再処理工場のウラン試験時に発生が予想されるトラブル等とその対応(No.7-2)

| | | |
|----------------|---|---|
| 件名 | せん断機位置検出センサー連結ピンの破損・交換 | |
| 事象の概要 | (1) 発生場所: 機器 前処理建屋: せん断機 (2) 発生の状況 せん断機の運転中 (3) 概要 せん断刃ホルダ台車の位置検出センサーの連結ピンが破損することにより、せん断機が停止 | |
| 事象による影響 | (1) 工場外への影響 工場外への影響は生じない。 前処理建屋の建屋せん断処理・溶解廃ガス処理設備及び換気設備が稼働しているセル内での事象及びそれに伴う復旧作業であり、放射性物質の放出等、工場外への影響は生じない。 (2) 安全性への影響 安全上の問題は生じない。 連結ピンの破損により自動運転時間超過又は油圧圧力過大の警報でせん断機は停止し、これ以上の事象の進展はなく、安全上の問題は生じない。 (3) 作業員への影響 作業員への影響は生じない。 連結ピンの交換はセル外作業で、放射性物質を直接扱わないため、作業員への影響は生じない。(但し、放射性物質と取り扱う場所と取り扱わない場所の境界であるため、汚染拡大防止設備の設置が必要) (4) 他工程への影響 下流の工程の運転に影響が生じる。 せん断が停止することにより、前処理建屋内の溶解槽以降の工程の運転に一時的に支障をきたすが、さらに下流の分離建屋以降の工程は、前処理建屋と分離建屋の中間に設置されている一時的な貯留槽(計量後中間貯槽)の残液量で運転継続の可否を判断する。 | |
| 対応の概要 | (1) 自動運転時間超過又は油圧圧力過大の警報及び位置検出値の異常から連結ピンの破損であることを推定する。 (2) 現場に出向き、連結ピンが破損していることを確認後、定められた保守作業手順に従って連結ピンを交換する。 (3) 定められた操作手順に従って運転を再開する。 | |
| 公表区分 | 翌平日に公表(ホームページへ掲載) | |
| 対応区分 | (a) 運転継続しながら復旧 (b) 運転システムを切り替えて復旧 (c) 当該機器を停止して復旧 (d) 当該設備を停止して復旧 (e) 影響範囲の設備を停止 | 国際評価尺度(INES)のレベル  0以下 1 2 3 4 5 6 7 (レベル2以下は工場外への影響はない) 放射能物質の外部放出 工場外への影響 日本原燃による評価: レベル0以下 放射能物質による汚染、被ばく等 工場内への影響 運転制限範囲からの逸脱等 多重防護の劣化 |

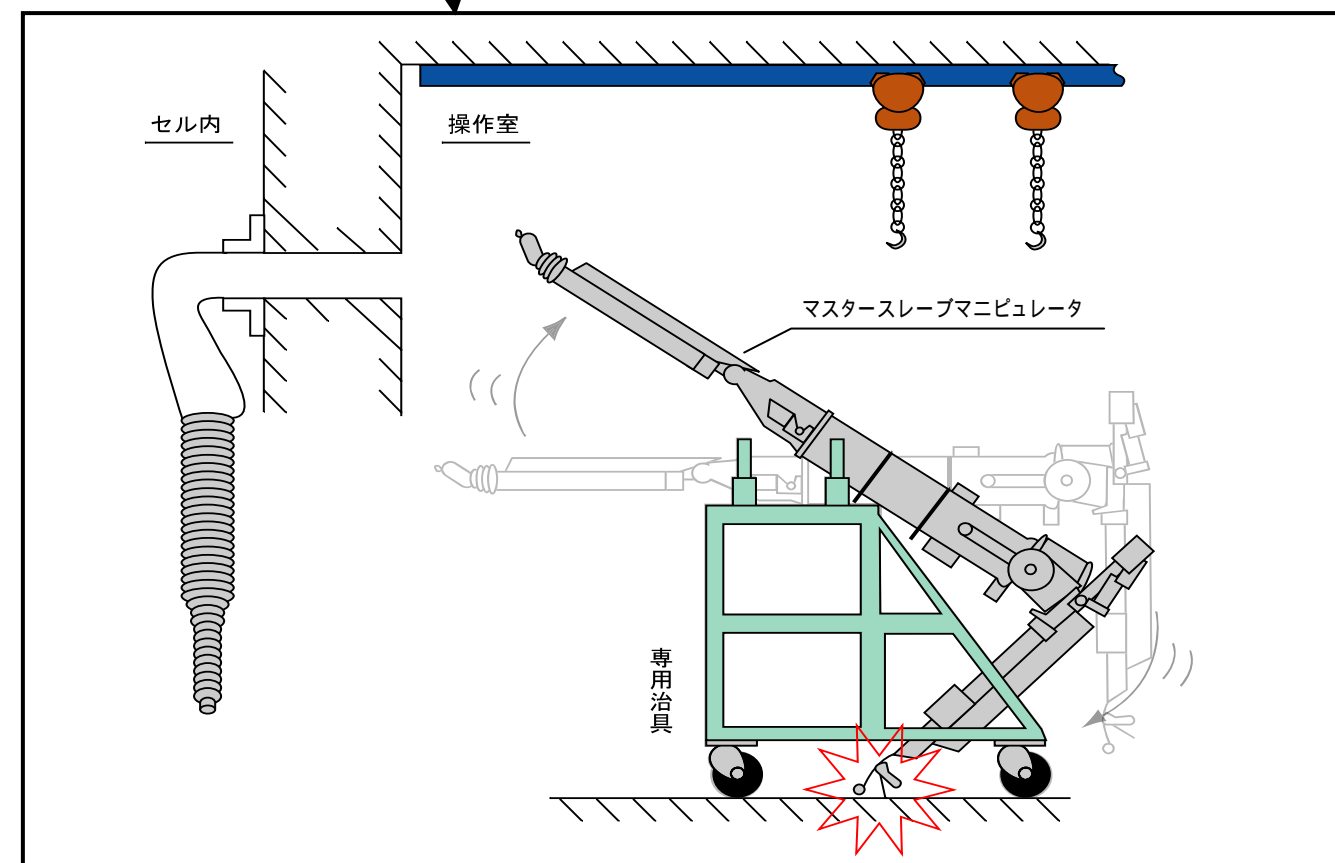
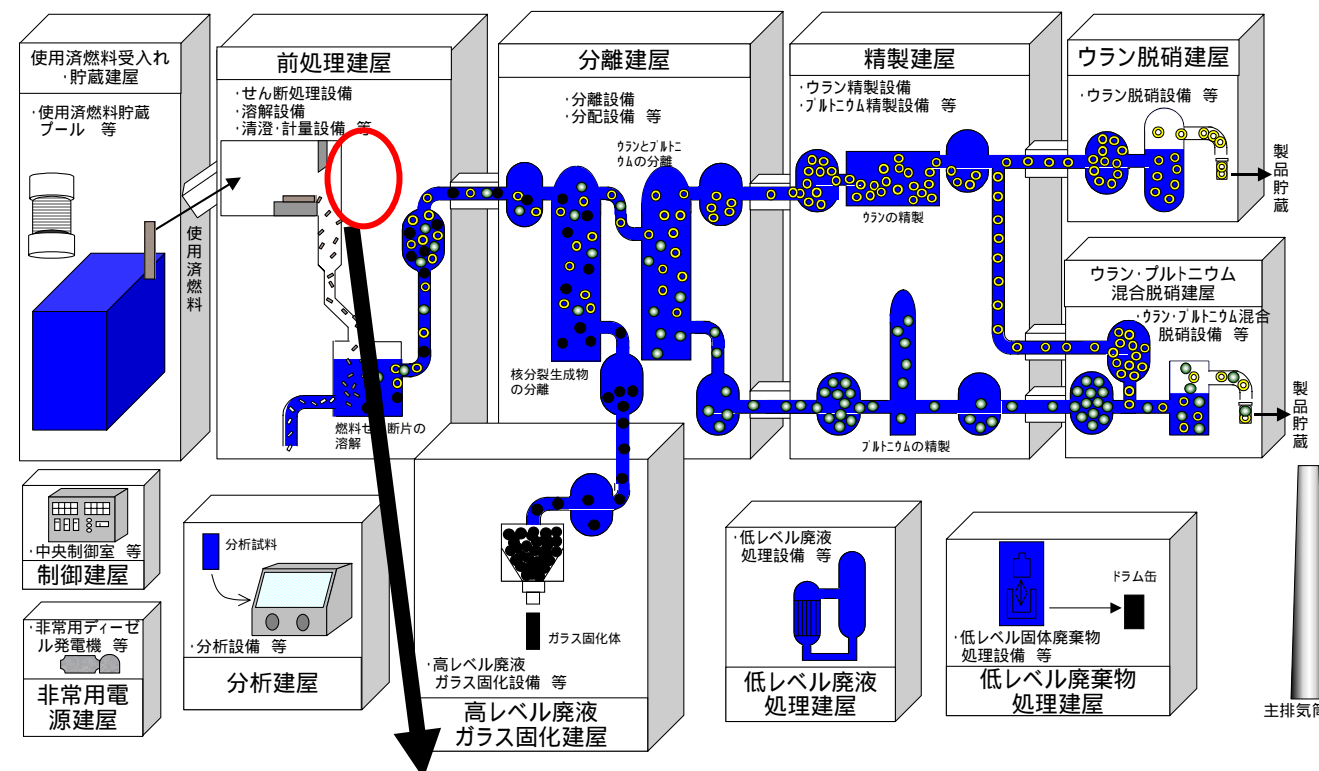


再処理工場のウラン試験時に発生が予想されるトラブル等とその対応(No.7-3)

| | | | | | | | | | | | | |
|--------------------|---|----------------|------------------------|--|--------------------|--|-----------------|--|-----------------|--|----------------|--|
| 件名 | マスタースレーブマニピュレータの破損 | | | | | | | | | | | |
| 事象の概要 | <p>(1) 発生場所: 機器 前処理建屋: マスタースレーブマニピュレータ</p> <p>(2) 発生の状況 マスタースレーブマニピュレータの保守作業時</p> <p>(3) 概要 マスタースレーブマニピュレータが故障し、交換のため専用治具を用いてセル外に引抜く作業を実施していたところ、当該マスタースレーブマニピュレータが落下し破損</p> <p>* 他建屋も含め同種の機器においても、同様の事象の発生が予想される。</p> | | | | | | | | | | | |
| 事象による影響 | <p>(1) 工場外への影響 工場外への影響は生じない。 前処理建屋換気設備が稼働している室内での事象及びそれに伴う復旧作業であり、放射性物質の放出等の工場外への影響は生じない。</p> <p>(2) 安全性への影響 安全上の問題は生じない。 マスタースレーブマニピュレータの破損により点検・保守に支障が生じるが、他の機器に損傷を与えなければ、これ以上の事象の進展はなく、安全上の問題は生じない。</p> <p>(3) 作業員への影響 作業員への影響は生じない。 マスタースレーブマニピュレータの復旧作業は定められた放射線管理要領に従い、作業計画に沿って効率的に作業を進めることにより、作業員への影響は生じない。</p> <p>(4) 他工程への影響 他工程への影響は生じない。 マスタースレーブマニピュレータは保守作業に必要な設備であり、マスタースレーブマニピュレータの破損により、他の工程への影響は生じない。</p> | | | | | | | | | | | |
| 対応の概要 | <p>(1) 破損箇所の状況を確認する。</p> <p>(2) 予め定められた保守作業手順に従い、マスタースレーブマニピュレータの復旧を実施する。</p> | | | | | | | | | | | |
| 公表区分 | 翌平日に公表(ホームページへ掲載) | | | | | | | | | | | |
| 対応区分 | <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">(a) 運転継続しながら復旧</td> <td rowspan="5" style="width: 30%; vertical-align: middle;"> 国際評価尺度 (INES) のレベル </td> <td style="width: 40%;"></td> </tr> <tr> <td>(b) 運転システムを切り替えて復旧</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(c) 当該機器を停止して復旧</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(d) 当該設備を停止して復旧</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(e) 影響範囲の設備を停止</td> <td></td> </tr> </table> <p>日本原燃による評価: レベル0以下</p> | (a) 運転継続しながら復旧 | 国際評価尺度 (INES) のレベル | | (b) 運転システムを切り替えて復旧 | | (c) 当該機器を停止して復旧 | | (d) 当該設備を停止して復旧 | | (e) 影響範囲の設備を停止 | |
| (a) 運転継続しながら復旧 | 国際評価尺度 (INES) のレベル | | | | | | | | | | | |
| (b) 運転システムを切り替えて復旧 | | | | | | | | | | | | |
| (c) 当該機器を停止して復旧 | | | | | | | | | | | | |
| (d) 当該設備を停止して復旧 | | | | | | | | | | | | |
| (e) 影響範囲の設備を停止 | | | | | | | | | | | | |

本事象は当該機器停止時の保守作業中に発生したもので対応区分該当なし。

事象概要



再処理工場のウラン試験時に発生が予想されるトラブル等とその対応(No.7-4)

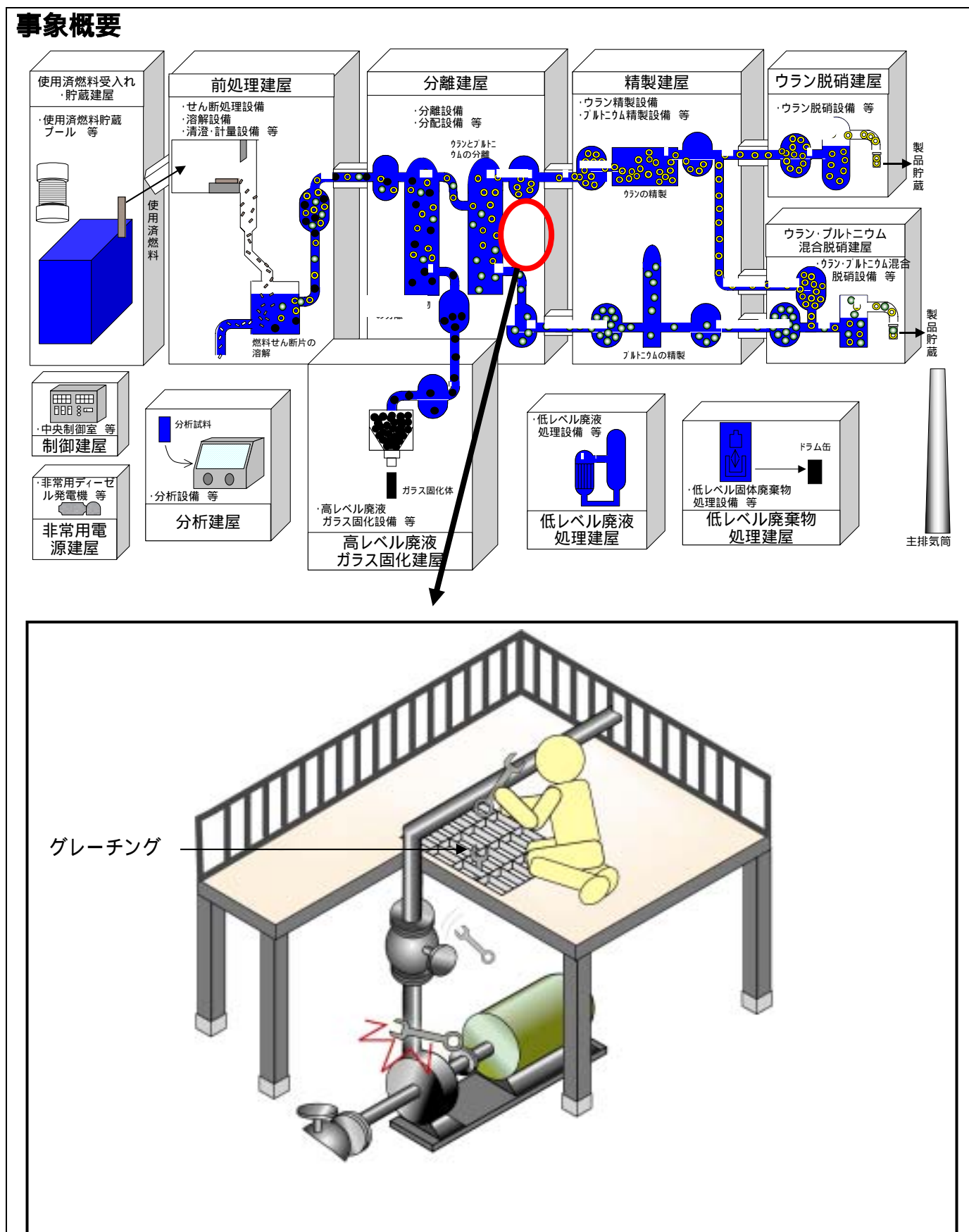
| | | |
|----------------|--|---|
| 件名 | 空転運転に伴うポンプの損傷 | |
| 事象の概要 | <p>(1) 発生場所: 機器 分離建屋: アクティブ試薬設備</p> <p>(2) 発生の状況 アクティブ試薬設備の運転中</p> <p>(3) 概要 作業員が気づかずにポンプの液抜きラインの弁ハンドルに接触したため、弁が半開状態になり、液が流出した。そのため、液がなくなりポンプの空転状態によりポンプが損傷</p> <p>*他の建屋も含め同種の作業においても、同様な事象の発生が予想される。</p> | |
| 事象による影響 | <p>(1) 工場外への影響 工場外への影響は生じない。 分離建屋換気設備が稼働している室内での事象及びそれに伴う復旧作業であり、放射性物質の放出等の工場外への影響は生じない。</p> <p>(2) 安全性への影響 安全上の問題は生じない。 ポンプ損傷に伴い運転を停止するため、これ以上の事象の進展はなく、安全上の問題は生じない。</p> <p>(3) 作業員への影響 作業員への影響は生じない。 ポンプの復旧作業にあたっては、定められた放射線管理要領に従い、作業計画に沿って効率的に作業を進めることにより、作業員への影響は生じない。</p> <p>(4) 他工程への影響 他工程への影響は生じない。 予備のポンプに切り替えて運転を続行するため、他工程への影響は生じない。</p> | |
| 対応の概要 | <p>(1) ポンプの故障の原因が液抜きラインからの液の流出であることを確認する。</p> <p>(2) 予備のポンプに切り替えて、液移送を続行する。</p> <p>(3) 定められた保守作業手順に従って、ポンプの保守を行う。</p> <p>(4) 保守終了後、作動試験でポンプ作動確認を行い、異常のない場合は、定められた操作手順により運転を再開する。</p> | |
| 公表区分 | 翌平日に公表(ホームページへ掲載) | |
| 対応区分 | <p>(a) 運転継続しながら復旧</p> <p>(b) 運転系統を切り替えて復旧</p> <p>(c) 当該機器を停止して復旧</p> <p>(d) 当該設備を停止して復旧</p> <p>(e) 影響範囲の設備を停止</p> | <p>国際評価尺度 (INES) のレベル</p> <p style="text-align: center;">0以下 1 2 3 4 5 6 7</p> <p>(レベル2以下は工場外への影響はない)</p> <p style="text-align: center;">放射性物質の外部放出 工場外への影響</p> <p>日本原燃による評価: レベル0以下</p> <p style="text-align: center;">放射性物質による汚染、被ばく等 工場内への影響</p> <p style="text-align: center;">運転時確認範囲からの逸脱等 多重防護の劣化</p> |

事象概要

ドレン系へ液が流出したため、液がなくなりポンプの空転状態によるポンプの損傷。

再処理工場のウラン試験時に発生が予想されるトラブル等とその対応(No.7-5)

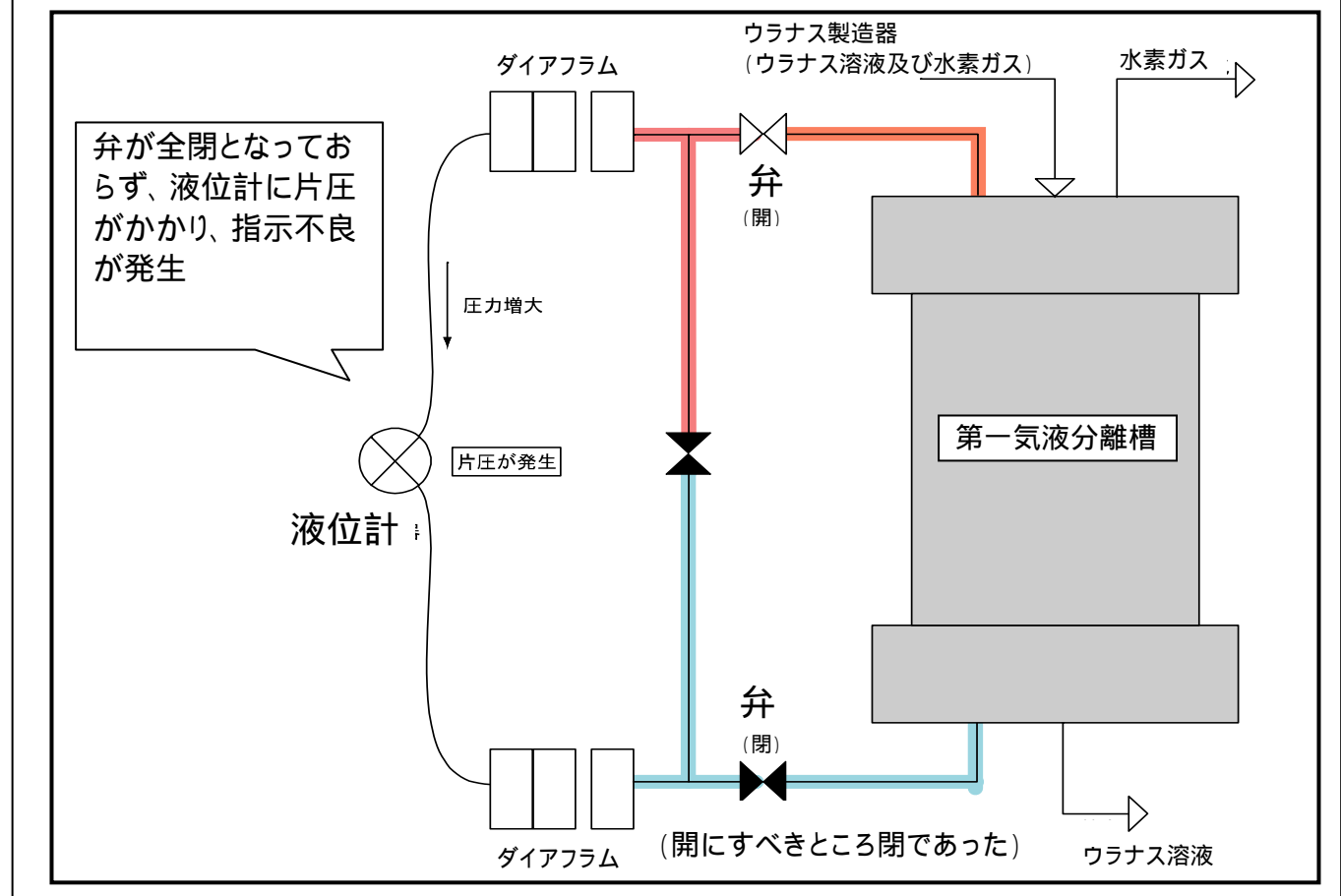
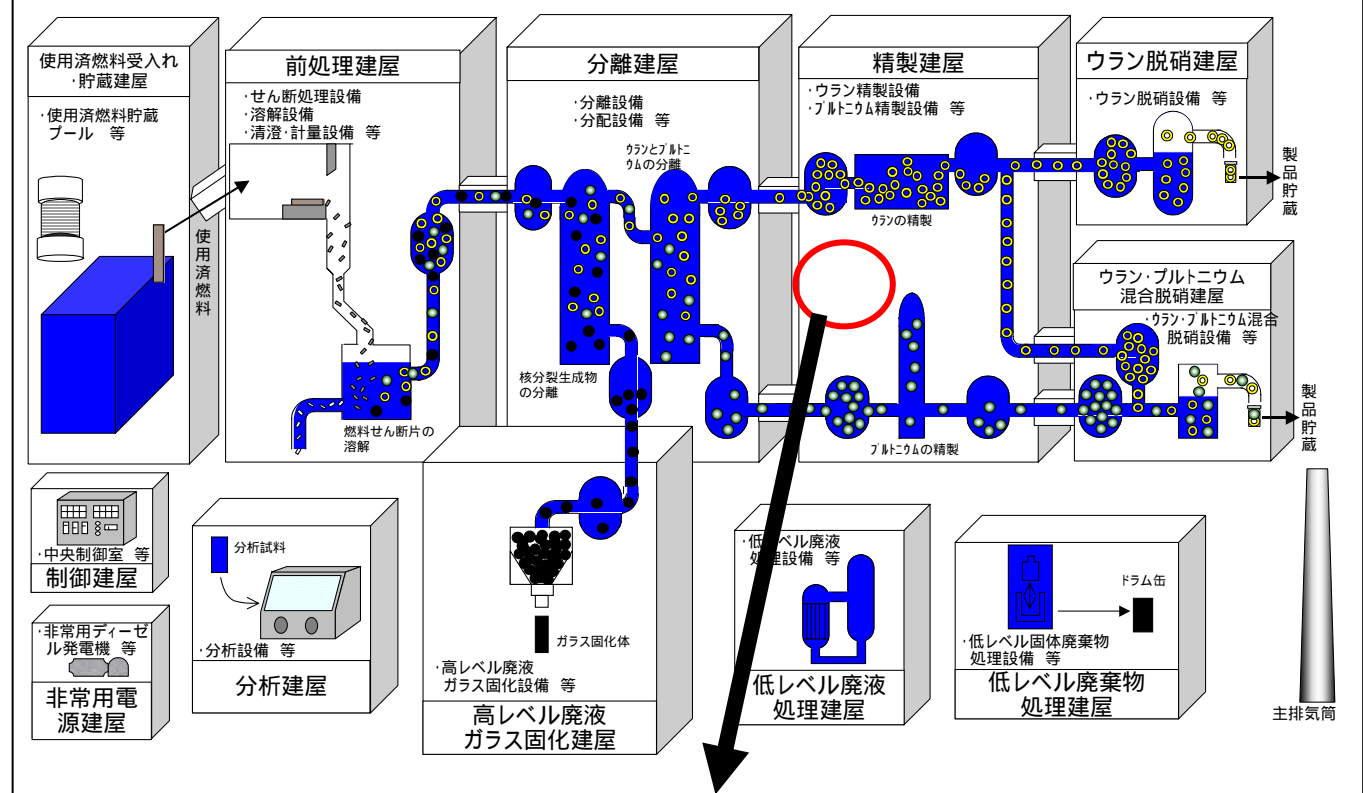
| | | |
|----------------|---|---|
| 件名 | 工具落下による中和廃液ポンプの機器破損 | |
| 事象の概要 | <p>(1) 発生場所: 機器 分離建屋: 中和廃液ポンプ</p> <p>(2) 発生の状況 ウラン試験期間中設備点検時</p> <p>(3) 概要 グレーチングの上で機器の点検作業を実施していたところ、誤ってグレーチングの隙間から工具を落として直下にあった中和廃液ポンプの一部を破損させ、試薬廃液設備が停止</p> <p>*他の建屋も含め同種の作業においても、同様な事象の発生が予想される。</p> | |
| 事象による影響 | <p>(1) 工場外への影響 工場外への影響は生じない。 分離建屋の換気設備が稼働している系統及び室内での事象並びにそれに伴う復旧作業であり、放射性物質の放出等の工場外への影響は生じない。</p> <p>(2) 安全性への影響 安全上の問題は生じない。 中和廃液ポンプの故障に伴い、試薬廃液設備の運転を停止するため、これ以上の事象の進展はなく、安全上の問題は生じない。</p> <p>(3) 作業員への影響 作業員への影響は生じない。 中和廃液ポンプの復旧作業は、定められた放射線管理要領に従い、作業計画に沿って効率的に作業を進めることにより、作業員への影響は生じない。</p> <p>(4) 他工程への影響 他工程への影響は生じない。 定められた保守作業手順に従い、破損した機器を修理することで早期に復旧が可能であり、他工程への影響は生じない。</p> | |
| 対応の概要 | <p>(1) 破損状況を確認する。</p> <p>(2) 放射性物質などの漏えいがある場合は、漏えい拡大防止対策を講じ、除染を行った後、予め定められた保守手順書に従い、故障箇所の復旧を実施する。</p> <p>(3) 復旧箇所に異常のないことを確認した後、予め定められた手順に従い運転を再開する。</p> | |
| 公表区分 | 翌平日に公表(ホームページへ掲載) | |
| 対応区分 | <p>(a) 運転継続しながら復旧</p> <p>(b) 運転系統を切り替えて復旧</p> <p>(c) 当該機器を停止して復旧</p> <p>(d) 当該設備を停止して復旧</p> <p>(e) 影響範囲の設備を停止</p> | <p>国際評価尺度 (INES) のレベル</p> <p style="text-align: center;">0以下 1 2 3 4 5 6 7</p> <p>(レベル2以下は工場外への影響はない)</p> <p style="text-align: right;">放射性物質の外部放出 工場外への影響</p> <p>日本原燃による評価: レベル0以下</p> <p style="text-align: center;">放射性物質による汚染、被ばく等 工場内への影響</p> <p style="text-align: center;">運転時制御室からの逸脱等 多重防護の劣化</p> |



再処理工場のウラン試験時に発生が予想されるトラブル等とその対応(No.7-6)

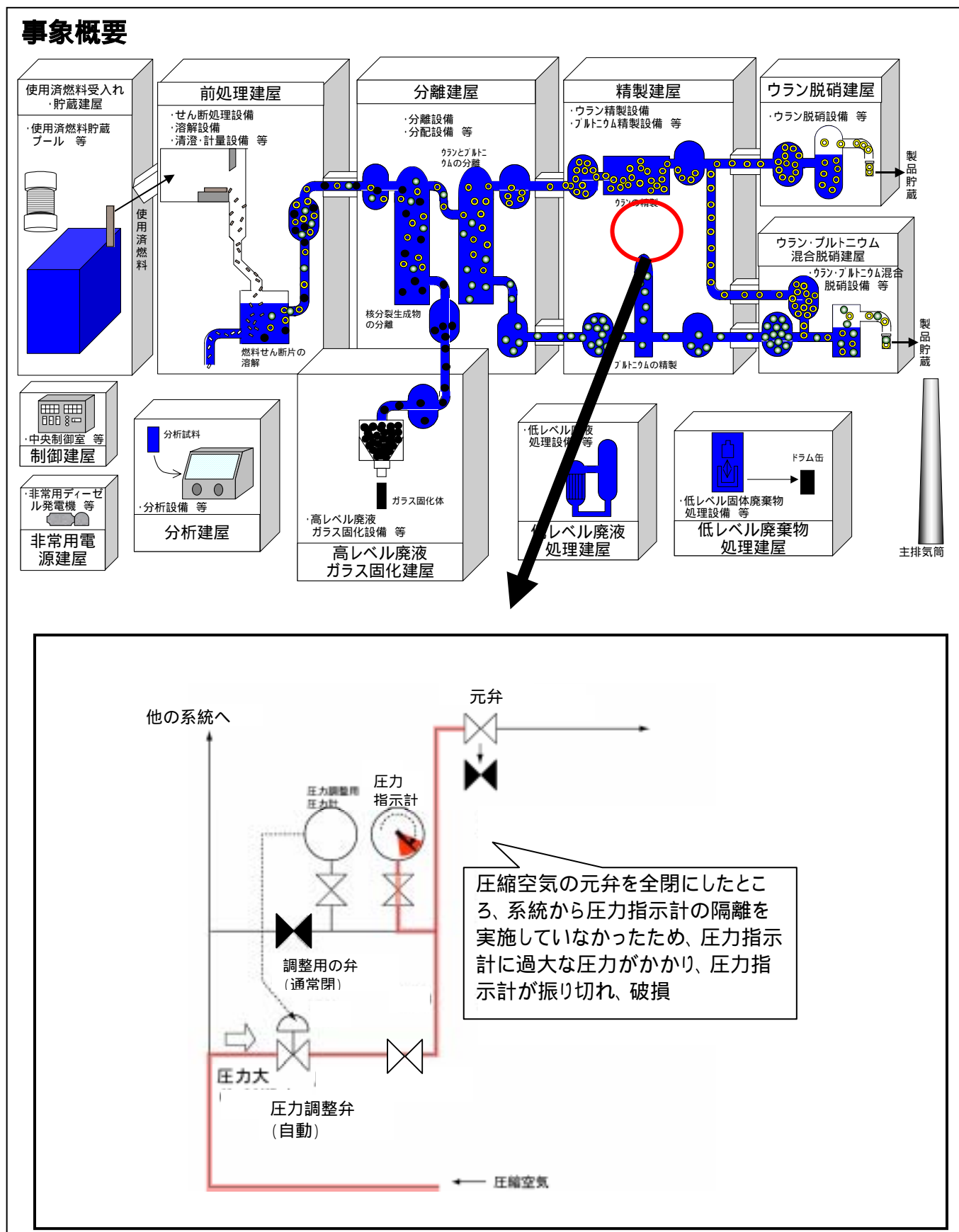
| | | | | | | | | | | | | |
|--------------------|--|--|---|--|--------------------|------------|-----------------|---------|-----------------|---------|----------------|-----------------|
| 件名 | 弁の復旧忘れによる液位計指示不良 | | | | | | | | | | | |
| 事象の概要 | <p>(1) 発生場所: 機器 精製建屋: ウラナス製造設備</p> <p>(2) 発生の状況 ウラナス製造設備の起動時</p> <p>(3) 概要 ウラナス製造設備の起動時において、弁の復旧忘れ(閉 開)により、液位に片圧が発生し、その結果、実際の液位より低く指示し、液位低のインターロックが作動しウラナス製造設備が停止</p> <p style="font-size: small;">* 他の建屋も含め同種の機器においても、同様の事象の発生が予想される。</p> | | | | | | | | | | | |
| 事象による影響 | <p>(1) 工場外への影響 工場外への影響は生じない。 精製建屋換気設備が稼働している室内での事象及びそれに伴う復旧作業であり、放射性物質の放出等、工場外への影響は生じない。</p> <p>(2) 安全性への影響 安全上の問題は生じない。 液位低のインターロックが作動しウラナス製造設備が停止することから、これ以上の事象の進展はなく、安全上の問題は生じない。</p> <p>(3) 作業員への影響 作業員への影響は生じない。 液位計の点検作業は、定められた放射線管理要領に従い、作業計画に沿って効率的に作業を進めることにより、作業員への影響は生じない。</p> <p>(4) 他工程への影響 上流、下流の工程の運転に影響が生じる。 ウラナス製造設備の運転に影響が生じる。また、上流及び下流の工程の運転は、一時的な貯留槽のウラナスの残液量で運転継続の可否を判断する。</p> | | | | | | | | | | | |
| 対応の概要 | <p>(1) ウラナス製造設備の起動作業を停止し、液位計指示不良の原因が弁の復旧忘れであることを確認する。</p> <p>(2) 定められた保守手順に従って液位計の点検を行い、弁を復旧する。</p> <p>(3) 定められた操作手順に従って、ウラナス製造設備の起動を再開する。</p> | | | | | | | | | | | |
| 公表区分 | 毎月集約して月1回公表(ホームページへ掲載) | | | | | | | | | | | |
| 対応区分 | <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">(a) 運転継続しながら復旧</td> <td rowspan="5" style="width: 20%; vertical-align: top;"> 国際評価尺度 (INES)のレベル 日本原燃による評価: レベル0以下 放射性物質による汚染、被ばく等 運転時閉鎖からの逸脱等 多重防護の劣化 </td> <td style="width: 60%; text-align: center;"> 0以下 1 2 3 4 5 6 7 (レベル2以下は工場外への影響はない) </td> </tr> <tr> <td>(b) 運転システムを切り替えて復旧</td> <td style="text-align: center;">放射性物質の外部放出</td> </tr> <tr> <td>(c) 当該機器を停止して復旧</td> <td style="text-align: center;">工場外への影響</td> </tr> <tr> <td>(d) 当該設備を停止して復旧</td> <td style="text-align: center;">工場内への影響</td> </tr> <tr> <td>(e) 影響範囲の設備を停止</td> <td style="text-align: center;">放射性物質による汚染、被ばく等</td> </tr> </table> | (a) 運転継続しながら復旧 | 国際評価尺度 (INES)のレベル 日本原燃による評価: レベル0以下 放射性物質による汚染、被ばく等 運転時閉鎖からの逸脱等 多重防護の劣化 | 0以下 1 2 3 4 5 6 7 (レベル2以下は工場外への影響はない) | (b) 運転システムを切り替えて復旧 | 放射性物質の外部放出 | (c) 当該機器を停止して復旧 | 工場外への影響 | (d) 当該設備を停止して復旧 | 工場内への影響 | (e) 影響範囲の設備を停止 | 放射性物質による汚染、被ばく等 |
| (a) 運転継続しながら復旧 | 国際評価尺度 (INES)のレベル 日本原燃による評価: レベル0以下 放射性物質による汚染、被ばく等 運転時閉鎖からの逸脱等 多重防護の劣化 | 0以下 1 2 3 4 5 6 7 (レベル2以下は工場外への影響はない) | | | | | | | | | | |
| (b) 運転システムを切り替えて復旧 | | 放射性物質の外部放出 | | | | | | | | | | |
| (c) 当該機器を停止して復旧 | | 工場外への影響 | | | | | | | | | | |
| (d) 当該設備を停止して復旧 | | 工場内への影響 | | | | | | | | | | |
| (e) 影響範囲の設備を停止 | | 放射性物質による汚染、被ばく等 | | | | | | | | | | |

事象概要



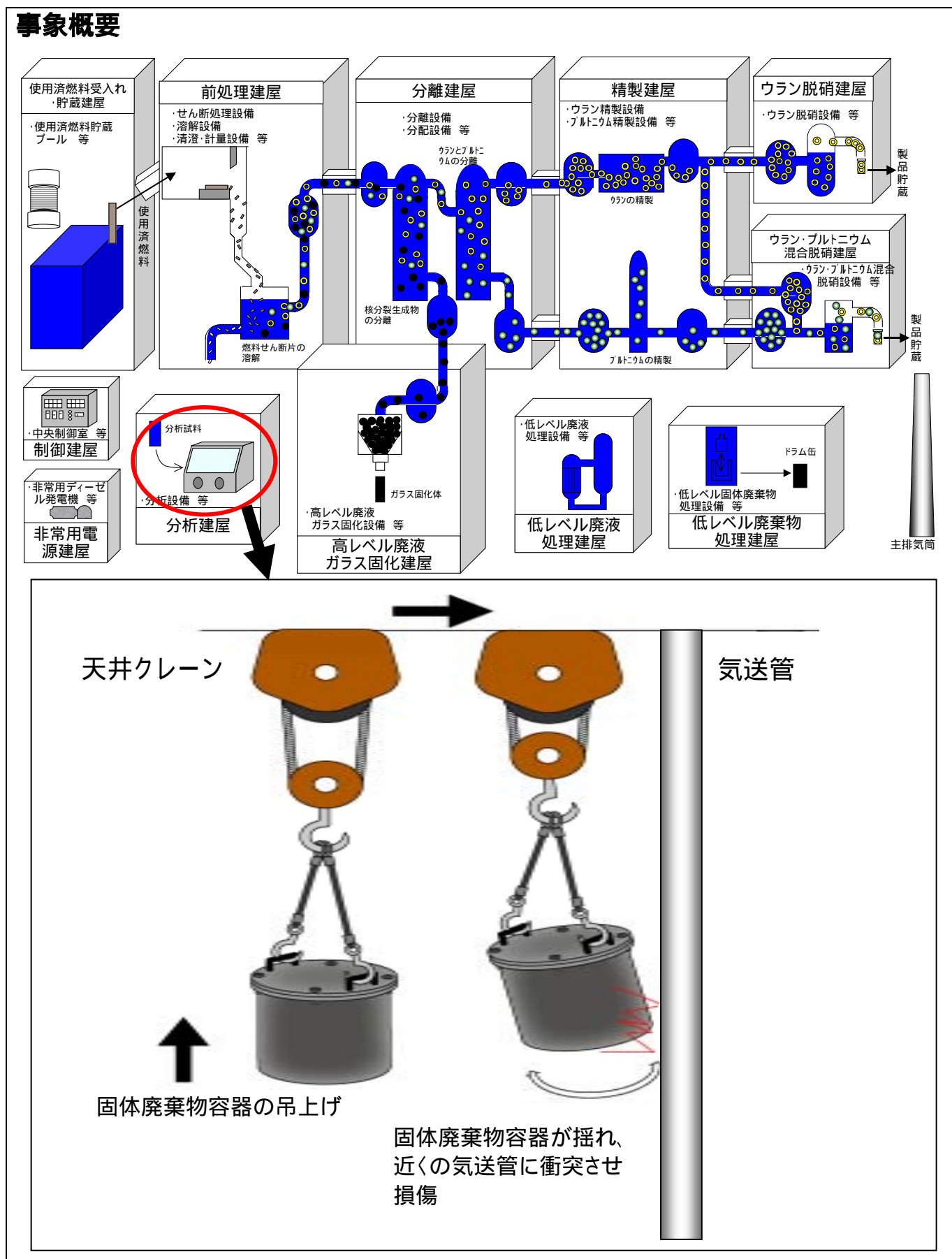
再処理工場のウラン試験時に発生が予想されるトラブル等とその対応(No.7-7)

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|---|-----------------|---|-----|---|---|---|---|---|---|---|------------------|------------|--|--|--|--|--|--|--|--|-----------------|-----------------|--|--|--|--|--|--|--|--|-----------------|-------------|--|--|--|--|--|--|--|--|----------------|---------|--|--|--|--|--|--|--|--|
| 件名 | 一般圧縮空気設備の試験中における圧力指示計の破損 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事象の概要 (1) 発生場所: 機器 (2) 発生の状況 (3) 概要 | <p>精製建屋: 一般圧縮空気設備</p> <p>一般圧縮空気設備の試験中</p> <p>一般圧縮空気の試験中、圧縮空気の元弁を全閉したところ、圧力指示計の系統からの隔離を実施していなかったため、過大な圧力により圧力指示計が破損</p> <p>* 他の建屋も含め同種の機器においても同様の事象の発生が予想される。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事象による影響 (1) 工場外への影響 (2) 安全性への影響 (3) 作業員への影響 (4) 他工程への影響 | <p>工場外への影響は生じない。 精製建屋換気設備が稼働している室内での事象及びそれに伴う復旧作業であり、放射性物質の放出等、工場外への影響は生じない。</p> <p>安全上の問題は生じない。 破損した圧力指示計は隔離するため、これ以上の事象の進展はなく、安全上の問題は生じない。</p> <p>作業員への影響は生じない。 圧力指示計の復旧作業は、定められた放射線管理要領に従い、作業計画に沿って効率的に作業を進めることにより、作業員への影響は生じない。</p> <p>他工程への影響は生じない。 破損した圧力指示計は、保守時に必要な計器であり、復旧作業は圧縮空気設備を運転した状態で行えることから、他工程への影響は生じない。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 対応の概要 | <p>(1) 破損した圧力指示計の元弁を閉止する。</p> <p>(2) 定められた保守手順書に従い破損した圧力指示計を取り外し、予備品と交換する。</p> <p>(3) 圧力指示計の指示値が正常であることを確認する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 公表区分 | 毎月集約して月1回公表(ホームページへ掲載) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 対応区分 | <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">(a) 運転継続しながら復旧</td> <td rowspan="5" style="width: 20%; vertical-align: middle;"> 国際評価尺度 (INES) のレベル (レベル2以下は工場外への影響はない) </td> <td style="width: 10%; text-align: center;">0以下</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">1</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">2</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">3</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">4</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">5</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">6</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">7</td> </tr> <tr> <td>(b) 運転系統を切り替えて復旧</td> <td style="text-align: center; background-color: #ffe4b5;">放射性物質の外部放出</td> <td colspan="8"></td> </tr> <tr> <td>(c) 当該機器を停止して復旧</td> <td style="text-align: center; background-color: #ffff00;">放射性物質による汚染、被ばく等</td> <td colspan="8"></td> </tr> <tr> <td>(d) 当該設備を停止して復旧</td> <td style="text-align: center; background-color: #90ee90;">運転時制限からの逸脱等</td> <td colspan="8"></td> </tr> <tr> <td>(e) 影響範囲の設備を停止</td> <td style="text-align: center; background-color: #add8e6;">多重防護の劣化</td> <td colspan="8"></td> </tr> </table> <p>工場外への影響</p> <p>日本原燃による評価: レベル0以下</p> <p>工場内への影響</p> | (a) 運転継続しながら復旧 | 国際評価尺度 (INES) のレベル (レベル2以下は工場外への影響はない) | 0以下 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | (b) 運転系統を切り替えて復旧 | 放射性物質の外部放出 | | | | | | | | | (c) 当該機器を停止して復旧 | 放射性物質による汚染、被ばく等 | | | | | | | | | (d) 当該設備を停止して復旧 | 運転時制限からの逸脱等 | | | | | | | | | (e) 影響範囲の設備を停止 | 多重防護の劣化 | | | | | | | | |
| (a) 運転継続しながら復旧 | 国際評価尺度 (INES) のレベル (レベル2以下は工場外への影響はない) | 0以下 | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (b) 運転系統を切り替えて復旧 | | 放射性物質の外部放出 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (c) 当該機器を停止して復旧 | | 放射性物質による汚染、被ばく等 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (d) 当該設備を停止して復旧 | | 運転時制限からの逸脱等 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (e) 影響範囲の設備を停止 | | 多重防護の劣化 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |



再処理工場のウラン試験時に発生が予想されるトラブル等とその対応(No.7-8)

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------|--|-------------------------|--|------------|---|---|---|---|---|---|---|------------------|-------------------------|------------|--|--|--|--|--|--|--|-----------------|---------|--|--|--|--|--|--|--|--|-----------------|-----------------|--|--|--|--|--|--|--|--|----------------|----------------------|--|--|--|--|--|--|--|--|-------------------------------|
| 件名 | 固体廃棄物容器及びクレーン等取扱い時における損傷 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事象の概要 | <p>(1) 発生場所: 機器 分析建屋: 気送管</p> <p>(2) 発生の状況 分析ボックスからの固体廃棄物搬出・搬送時</p> <p>(3) 概要 クレーンにて固体廃棄物容器を吊り上げたところ固体廃棄物容器が揺れ、気送管に衝突し、気送管が損傷</p> <p style="text-align: center;">* 他の建屋も含め同様の作業においても、同様な事象の発生が予想される。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事象による影響 | <p>(1) 工場外への影響 工場外への影響は生じない。 分析建屋の建屋換気設備が稼働している室内での事象及びそれに伴う復旧作業であり、放射性物質の放出等、工場外への影響は生じない。</p> <p>(2) 安全性への影響 安全上の問題は生じない。 固体廃棄物搬出作業及び損傷した気送設備の使用を中止するが、気送管の損傷に進展性がなければ、これ以上の事象の進展はなく、安全上の問題は生じない。</p> <p>(3) 作業員への影響 作業員への影響は生じない。 損傷した気送管の復旧にあたっては、定められた放射線管理要領に従い、作業計画に沿って効率的に作業を進めることにより、作業員への影響は生じない。</p> <p>(4) 他工程への影響 他工程への影響が生じる。 気送管の破損に伴い、当該箇所を通る分析試料の気送が一時的に停止する。気送経路を変更することで対応できない箇所の場合、工程の運転に影響が生じることがある。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 対応の概要 | <p>(1) 気送管の損傷の程度を調査する。</p> <p>(2) 放射性物質の漏えいがないことを確認する。</p> <p>(3) 定められた保守作業手順に従い破損した気送管の保守を行う。</p> <p>(4) 保守後、作動確認等を行い、異常がないことを確認する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 公表区分 | 翌平日に公表(ホームページへ掲載) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 対応区分 | <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">(a) 運転継続しながら復旧</td> <td rowspan="5" style="width: 10%; vertical-align: middle;"> 国際評価尺度 (INES) のレベル 日本原燃による評価: レベル0以下 </td> <td style="width: 10%; text-align: center;">0以下</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">1</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">2</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">3</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">4</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">5</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">6</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">7</td> </tr> <tr> <td>(b) 運転系統を切り替えて復旧</td> <td style="text-align: center;">← (レベル2以下は工場外への影響はない) →</td> <td colspan="8" style="text-align: center;">放射性物質の外部放出</td> </tr> <tr> <td>(c) 当該機器を停止して復旧</td> <td colspan="9" style="text-align: center;">工場外への影響</td> </tr> <tr> <td>(d) 当該設備を停止して復旧</td> <td colspan="9" style="text-align: center;">放射性物質による汚染、被ばく等</td> </tr> <tr> <td>(e) 影響範囲の設備を停止</td> <td colspan="9" style="text-align: center;">運転制限範囲からの逸脱等 多重防護の劣化</td> </tr> </table> | (a) 運転継続しながら復旧 | 国際評価尺度 (INES) のレベル 日本原燃による評価: レベル0以下 | 0以下 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | (b) 運転系統を切り替えて復旧 | ← (レベル2以下は工場外への影響はない) → | 放射性物質の外部放出 | | | | | | | | (c) 当該機器を停止して復旧 | 工場外への影響 | | | | | | | | | (d) 当該設備を停止して復旧 | 放射性物質による汚染、被ばく等 | | | | | | | | | (e) 影響範囲の設備を停止 | 運転制限範囲からの逸脱等 多重防護の劣化 | | | | | | | | | <p>工場外への影響</p> <p>工場内への影響</p> |
| (a) 運転継続しながら復旧 | 国際評価尺度 (INES) のレベル 日本原燃による評価: レベル0以下 | 0以下 | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (b) 運転系統を切り替えて復旧 | | ← (レベル2以下は工場外への影響はない) → | | 放射性物質の外部放出 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (c) 当該機器を停止して復旧 | | 工場外への影響 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (d) 当該設備を停止して復旧 | | 放射性物質による汚染、被ばく等 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (e) 影響範囲の設備を停止 | | 運転制限範囲からの逸脱等 多重防護の劣化 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

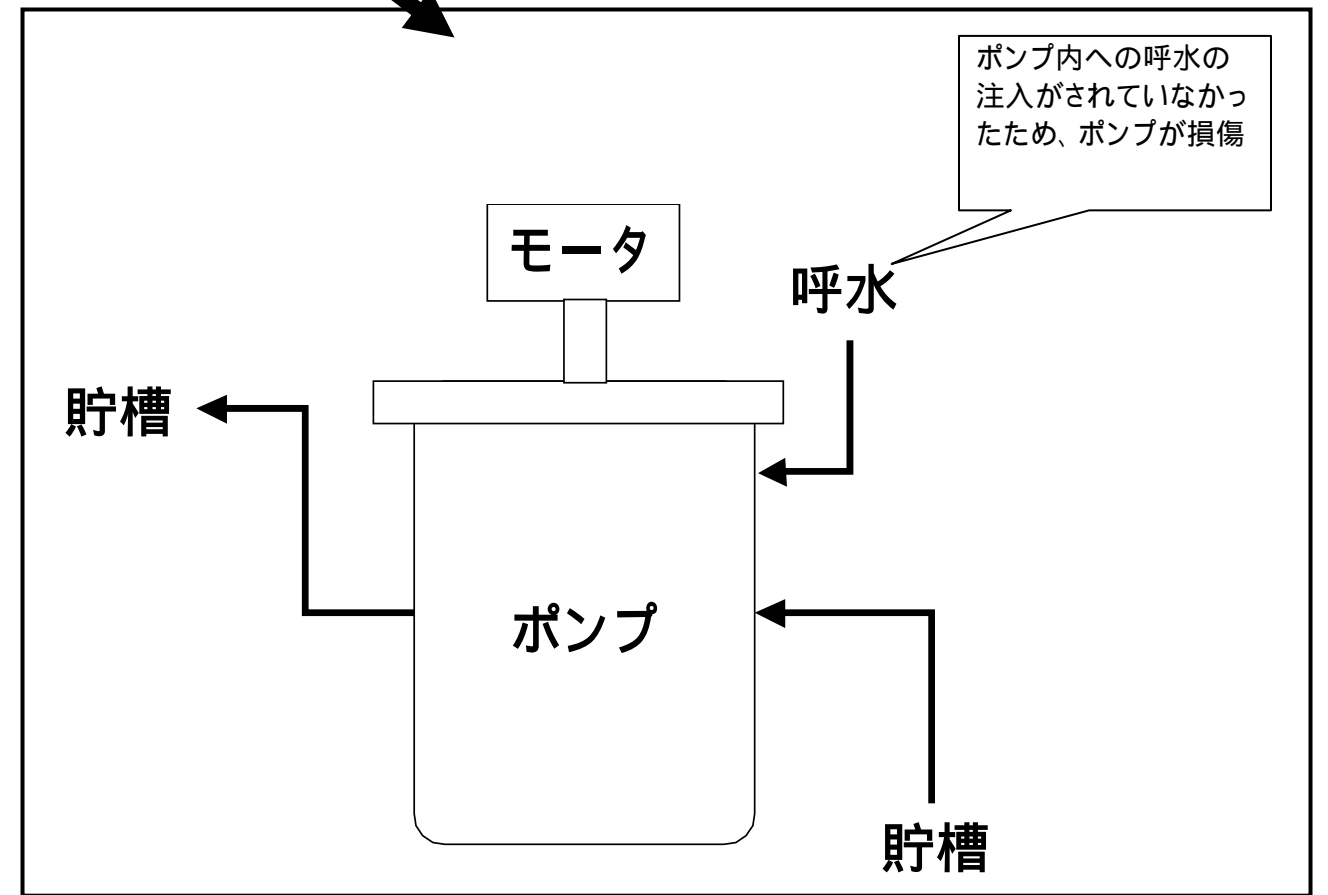
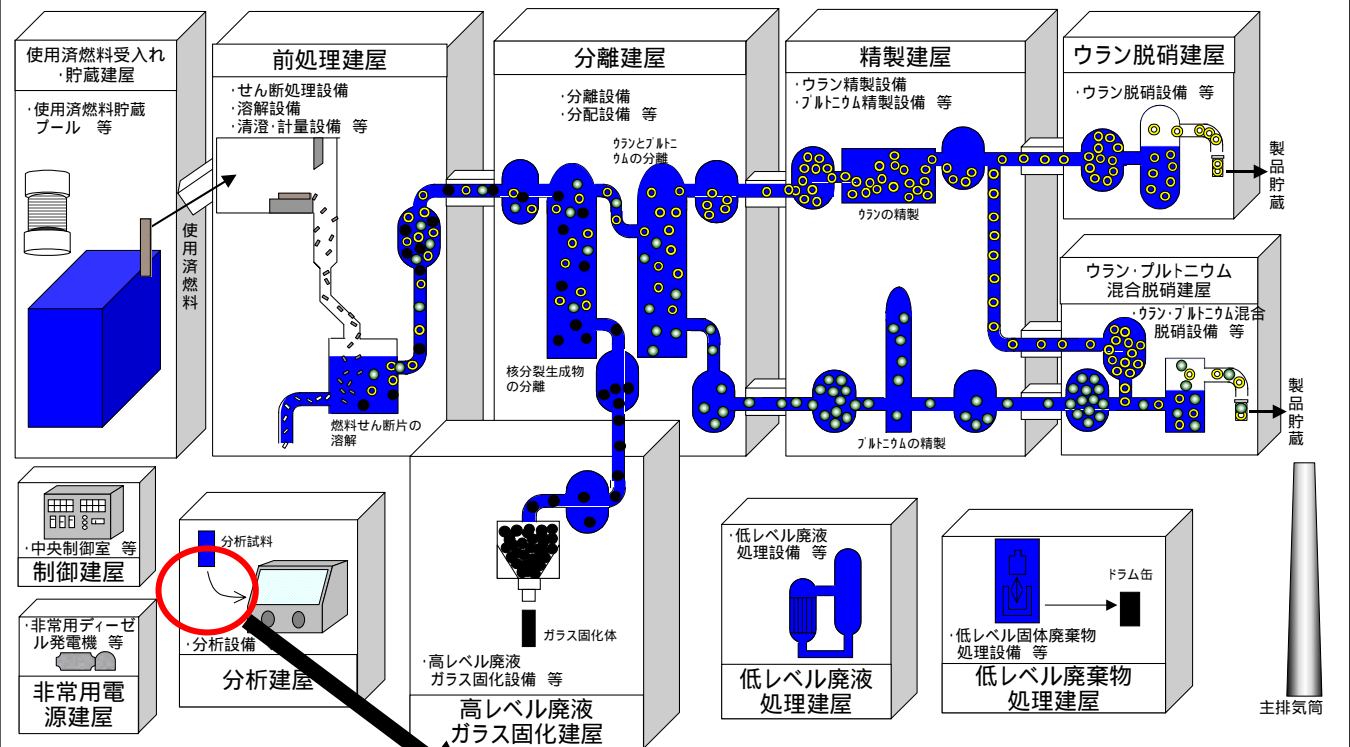


再処理工場のウラン試験時に発生が予想されるトラブル等とその対応(No.7-9)

| | | | | | | | |
|--------------------|--|----------------|--|--------------------|-----------------|-----------------|----------------|
| 件名 | 分解点検復旧後の運転確認時におけるポンプの損傷 | | | | | | |
| 事象の概要 | <p>(1) 発生場所: 機器</p> <p>(2) 発生の状況</p> <p>(3) 概要</p> <p>分析建屋: インアクティブ試験廃液設備</p> <p>インアクティブ含塩廃液受槽ポンプの月例点検中</p> <p>月例点検のため当該ポンプを起動したところ、分解点検後にポンプ内への呼水の注入がされていなかったため、ポンプが空運転となり、軸受け等が損傷</p> <p>* 他の建屋も含め同種の機器においても同様の事象の発生が予想される。</p> | | | | | | |
| 事象による影響 | <p>(1) 工場外への影響</p> <p>工場外への影響は生じない。 分析建屋換気設備が稼働している室内での事象及びそれに伴う復旧作業であり、放射性物質の放出等、工場外への影響は生じない。</p> <p>(2) 安全性への影響</p> <p>安全上の問題は生じない。 停止中の月例点検時におけるポンプの損傷であり、これ以上の事象の進展はなく、安全上の問題は生じない。</p> <p>(3) 作業員への影響</p> <p>作業員への影響は生じない。 ポンプの復旧作業は、定められた放射線管理要領に従い、作業計画に沿って効率的に作業を進めることにより、作業員への影響は生じない。</p> <p>(4) 他工程への影響</p> <p>他工程への影響は生じない。 停止中の月例点検時におけるポンプの損傷であり、当該ポンプシステムは2系統あることから、他工程への影響は生じない。</p> | | | | | | |
| 対応の概要 | <p>(1) インアクティブ含塩廃液受槽ポンプの損傷の原因が、ポンプ内に呼水がなかったためであることを確認する。</p> <p>(2) 定められた保守手順に従って、損傷したポンプを保守する。</p> <p>(3) 保守後、作動確認等を行い、異常がないことを確認する。</p> | | | | | | |
| 公表区分 | 翌平日に公表(ホームページへ掲載) | | | | | | |
| 対応区分 | <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">(a) 運転継続しながら復旧</td> <td rowspan="5" style="text-align: center;"> 国際評価尺度 (INES) のレベル 日本原燃による評価: レベル0以下 (レベル2以下は工場外への影響はない) 放射性物質による汚染、被ばく等 放射性物質の外部放出 運転時・保守時からの逸脱等 多重防護の劣化 </td> </tr> <tr> <td>(b) 運転システムを切り替えて復旧</td> </tr> <tr> <td>(c) 当該機器を停止して復旧</td> </tr> <tr> <td>(d) 当該設備を停止して復旧</td> </tr> <tr> <td>(e) 影響範囲の設備を停止</td> </tr> </table> | (a) 運転継続しながら復旧 | 国際評価尺度 (INES) のレベル 日本原燃による評価: レベル0以下 (レベル2以下は工場外への影響はない) 放射性物質による汚染、被ばく等 放射性物質の外部放出 運転時・保守時からの逸脱等 多重防護の劣化 | (b) 運転システムを切り替えて復旧 | (c) 当該機器を停止して復旧 | (d) 当該設備を停止して復旧 | (e) 影響範囲の設備を停止 |
| (a) 運転継続しながら復旧 | 国際評価尺度 (INES) のレベル 日本原燃による評価: レベル0以下 (レベル2以下は工場外への影響はない) 放射性物質による汚染、被ばく等 放射性物質の外部放出 運転時・保守時からの逸脱等 多重防護の劣化 | | | | | | |
| (b) 運転システムを切り替えて復旧 | | | | | | | |
| (c) 当該機器を停止して復旧 | | | | | | | |
| (d) 当該設備を停止して復旧 | | | | | | | |
| (e) 影響範囲の設備を停止 | | | | | | | |

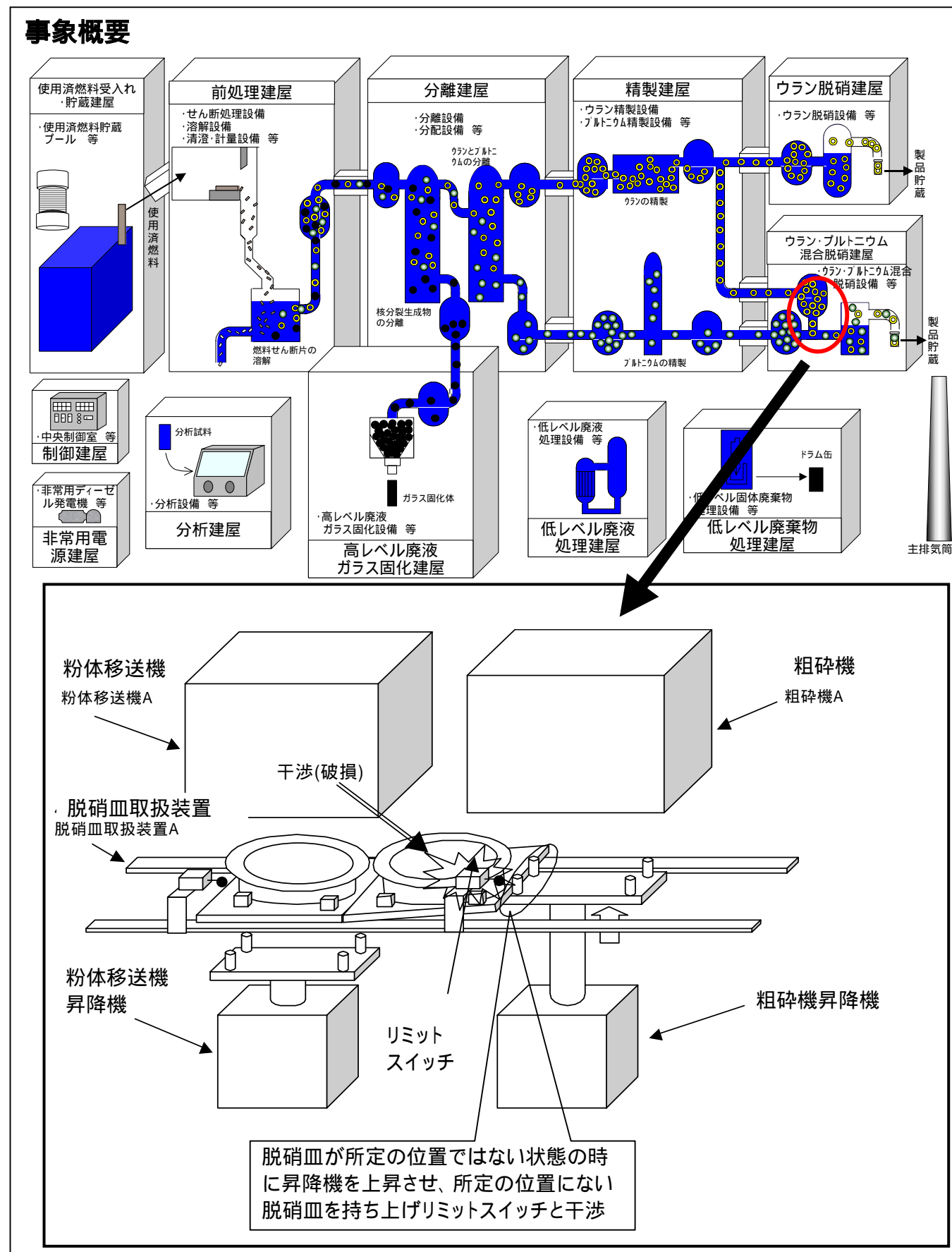
本事象は当該機器停止時の保守作業中に発生したもので対応区分該当なし。

事象概要



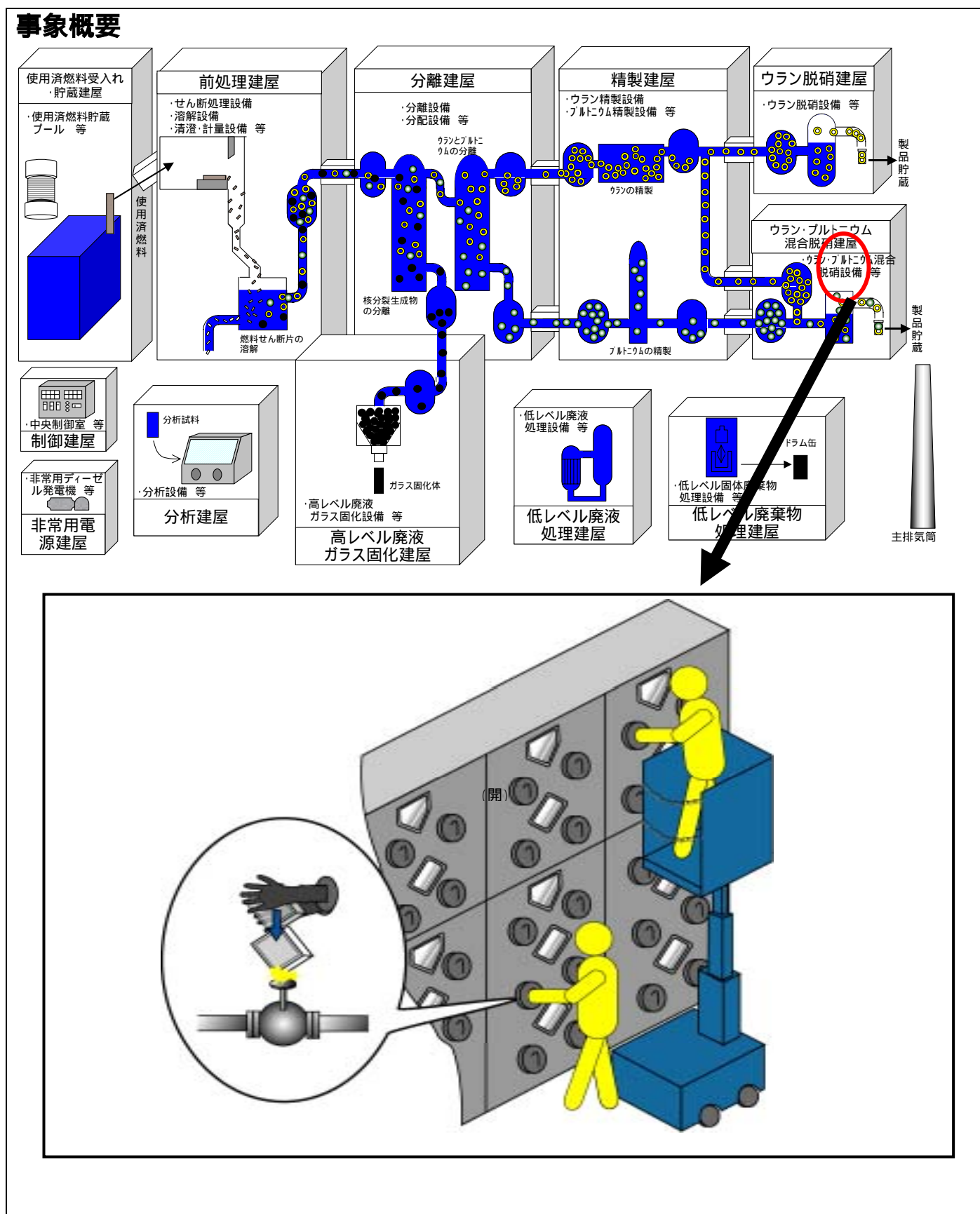
再処理工場のウラン試験時に発生が予想されるトラブル等とその対応(No.7-10)

| | | |
|----------------|---|---|
| 件名 | 作業員の確認不足による機器の破損 | |
| 事象の概要 | (1) 発生場所: 機器 ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋: 脱硝皿 (2) 発生の状況 ウラン試験中(ウラン粉末移送中) (3) 概要 脱硝皿取扱装置の状態確認のため、脱硝粉末体が入った脱硝皿を移動し、脱硝皿取扱装置の再起動の位置に脱硝皿を上昇させようとして昇降機を作動させたところ、脱硝皿がずれた位置にあり、機器(リミットスイッチ)と脱硝皿が干渉し、脱硝皿が破損したことにより脱硝粉末体がグローブボックス内に飛散 | |
| 事象による影響 | (1) 工場外への影響 工場外への影響は生じない。 ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋換気設備が稼働しているグローブボックス内での事象及びそれに伴う復旧作業であり、放射性物質の放出等の工場外への影響は生じない。 (2) 安全性への影響 安全上の問題は生じない。 脱硝皿の破損によりウラン・プルトニウム混合脱硝設備が停止するため、これ以上の事象の進展はなく、安全上の問題は生じない。 (3) 作業員への影響 作業員への影響は生じない。 脱硝皿の復旧はグローブボックス内での作業であり、作業員への影響は生じない。 (4) 他工程への影響 上流の工程の運転に影響が生じる。 破損した脱硝皿の復旧を行うのに時間を要する場合は、当該設備が影響を受けるが、脱硝工程は2系列あるため、下流の工程に影響なし。上流の工程である精製等の影響については、脱硝、精製の中間貯槽等の液量を確認し運転継続の判断をする。 | |
| 対応の概要 | (1) 脱硝皿の移動を行う。 (2) 飛散した粉末の回収を行い、リミットスイッチの状況の確認、必要に応じて定められた保守手順に従い保守を行う。 (3) 補修後の脱硝皿でのリミットスイッチ作動確認を行う。 (4) 予備品の脱硝皿について所定の手続き及び検査を実施したのち工程にセットし、脱硝工程の運転を再開する。 | |
| 公表区分 | 翌平日に公表(ホームページへ掲載) | |
| 対応区分 | (a) 運転継続しながら復旧 (b) 運転系統を切り替えて復旧 (c) 当該機器を停止して復旧 (d) 当該設備を停止して復旧 (e) 影響範囲の設備を停止 | 国際評価尺度(INES)のレベル 日本原燃による評価: レベル0以下 0以下 1 2 3 4 5 6 7 (レベル2以下は工場外への影響はない) 放射線物質の外部放出 工場外への影響 放射線物質による汚染、被ばく等 工場内への影響 運転時隣接区域からの逸脱等 多重防護の劣化 |



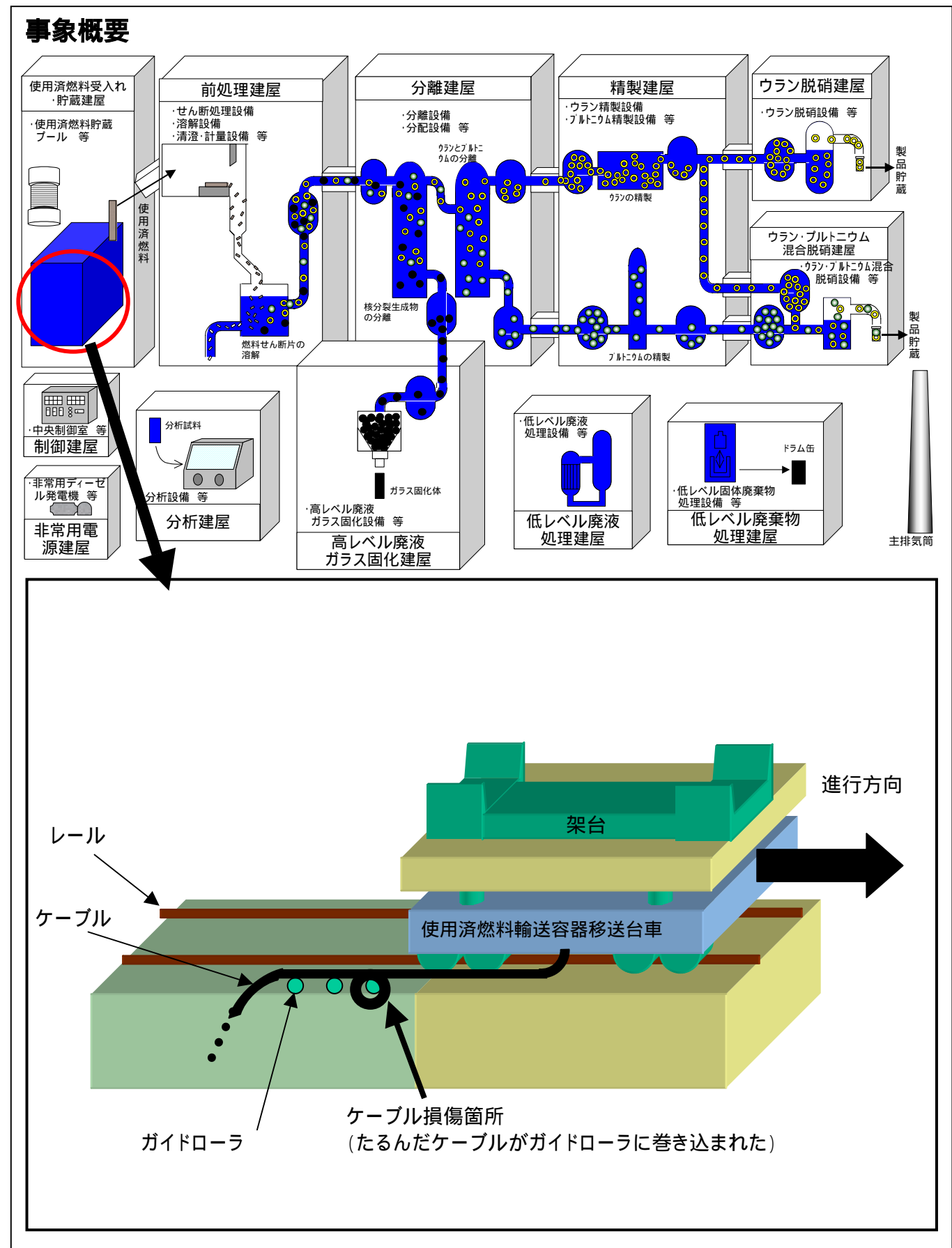
再処理工場のウラン試験時に発生が予想されるトラブル等とその対応(No.7 - 11)

| | | |
|----------------|--|--|
| 件名 | グローブボックス内フィルター落下による機器の破損 | |
| 事象の概要 | (1) 発生場所: 機器 ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋: 脱硝工程グローブボックス (2) 発生の状況 グローブボックス内のフィルター交換作業中 (3) 概要 グローブボックス内のフィルターの交換作業において、フィルターを落下させ、直下の機器を破損 *他の建屋も含め同種の作業においても、同様な事象の発生が予想される。 | |
| 事象による影響 | (1) 工場外への影響 工場外への影響は生じない。 ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋の換気設備が稼働しているため、本事象及びそれに伴う復旧作業であり、放射性物質の放出等の工場外への影響は生じない。 (2) 安全性への影響 安全上の問題は生じない。 グローブボックス内での機器の破損であり、破損部分を適切に隔離することで、これ以上の事象の進展はなく、安全上の問題は生じない。 (3) 作業員への影響 作業員への影響は生じない。 グローブボックス内の復旧作業にあたっては、定められた放射線管理要領に従い、作業計画に沿って効率的に作業を進めることにより、作業員への影響は生じない。 (4) 他工程への影響 上流、下流の工程の運転に影響が生じる。 破損した機器の上流及び下流の工程の運転は、その中間にある一時的な貯留槽の残液量で運転継続の可否を判断する。 | |
| 対応の概要 | (1) 破損機器の状況を確認する。 (2) 定められた作業手順に従って、フィルター及び破損した機器の交換を実施する。 (3) 定められた手順に従って、工程の運転を再開する。 | |
| 公表区分 | 翌平日に公表(ホームページへ掲載) | |
| 対応区分 | (a) 運転継続しながら復旧 (b) 運転システムを切り替えて復旧 (c) 当該機器を停止して復旧 (d) 当該設備を停止して復旧 (e) 影響範囲の設備を停止 | 国際評価尺度 (INES) のレベル 日本原燃による評価: レベル0以下 |



再処理工場で発生が予想されるトラブル等とその対応(No.7 - 12)

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------|--|---|----------------|---|---|---|---|--|--|--|--|--|--------------------|--|--|--|--|--|--|--|--|--|-----------------|--|--|--|--|--|--|--|--|--|-----------------|--|--|--|--|--|--|--|--|--|----------------|--|--|--|--|--|--|--|--|-----|---|---|---|---|---|---|---|
| 件名 | 使用済燃料輸送容器移送台車のケーブル損傷 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事象の概要 | <p>(1) 発生場所: 機器</p> <p>(2) 発生の状況</p> <p>(3) 概要</p> <p>使用済燃料輸送容器搬送台車で輸送容器の架台を運搬していたところ、当該移送台車の駆動用電源ケーブルが、同ケーブルの位置ずれ防止のためのガイドローラに巻き込まれて損傷し、当該移送台車が停止</p> <p>* 他建屋も含め同種の機器においても 同様の事象の発生が予想される。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事象による影響 | <p>(1) 工場外への影響</p> <p>工場外への影響は生じない。 使用済燃料は輸送容器内に収納され安全に保管しているため、放射性物質の放出等、工場外への影響は生じない。</p> <p>(2) 安全性への影響</p> <p>安全上の問題は生じない。 使用済燃料輸送容器搬送台車が停止しても、使用済燃料は輸送容器内に収納された状態であることから、これ以上の事象の進展はなく、安全上の問題も生じない。</p> <p>(3) 作業員への影響</p> <p>作業員への影響は生じない。 復旧作業は、定められた放射線管理要領に従い、作業計画書に沿って安全に作業を進めることにより、作業員への影響は生じない。</p> <p>(4) 他工程への影響</p> <p>他工程への影響は生じない。 使用済燃料受け入れ・貯蔵施設は既に操業を開始しており、独立していることから、再処理施設本体における試験運転への影響は生じない。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 対応の概要 | <p>(1) 使用済燃料輸送容器移送台車駆動用電源ケーブルの破損箇所を確認する。</p> <p>(2) 定められた手順書に従って、同ケーブルの交換作業を行う。</p> <p>(3) ケーブル交換作業終了後、使用済燃料輸送容器移送台車の動作確認を行い、異常のないことを確認した後、使用済燃料輸送容器の移送作業を再開する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 公表区分 | 翌平日に公表（ホームページへ掲載） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 対応区分 | <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 10%;">(a) 運転継続しながら復旧</td> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 10%;"></td> </tr> <tr> <td></td> <td>(b) 運転システムを切り替えて復旧</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>(c) 当該機器を停止して復旧</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>(d) 当該設備を停止して復旧</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>(e) 影響範囲の設備を停止</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>国際評価尺度 (INES) のレベル</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;">0以下</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">1</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">2</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">3</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">4</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">5</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">6</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">7</td> </tr> </table> <p>（レベル2以下は工場外への影響はない）</p> <p>放射能物質の外部放出 工場外への影響</p> <p>日本原燃による評価: レベル0以下</p> <p>放射能物質による汚染、被ばく等 工場内への影響</p> <p>運転制限範囲からの逸脱等 多重防護の劣化</p> | | (a) 運転継続しながら復旧 | | | | | | | | | | (b) 運転システムを切り替えて復旧 | | | | | | | | | | (c) 当該機器を停止して復旧 | | | | | | | | | | (d) 当該設備を停止して復旧 | | | | | | | | | | (e) 影響範囲の設備を停止 | | | | | | | | | 0以下 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| | (a) 運転継続しながら復旧 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | (b) 運転システムを切り替えて復旧 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | (c) 当該機器を停止して復旧 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | (d) 当該設備を停止して復旧 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | (e) 影響範囲の設備を停止 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 0以下 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |



再処理工場が発生が予想されるトラブル等とその対応(No.7 - 13)

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------|--|--------------------------|--|---------------|---------|------------------|-----------------|---------|-----------------|--------------------------|---------------|---------|-----------------|--|--|--|----------------|--|--|--|--|
| 件名 | 燃料移送水中台車駆動用ケーブル損傷 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事象の概要 | <p>(1) 発生場所: 機器 使用済燃料輸送容器管理建屋：燃料移送水中台車</p> <p>(2) 発生の状況 設備点検中</p> <p>(3) 概要 燃料移送水中台車の点検作業を実施中、燃料移送水中台車の駆動用ワイヤと点検用治具が干渉した状態で、点検用治具をつり上げたため、燃料移送水中台車の駆動用ワイヤを切断</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事象による影響 | <p>(1) 工場外への影響 工場外への影響は生じない。 使用済燃料の取扱い中に発生した事象ではないこと、また、放射性物質を除去するフィルタ等を有する建屋換気設備が稼働している建屋内での事象であり、放射性物質の放出等、工場外への影響は生じない。</p> <p>(2) 安全性への影響 安全上の問題は生じない。 燃料移送水中台車が停止しても、使用済燃料等の取り扱いが適切に行われていない点検中であることから、これ以上の事象の進展はなく、安全上の問題も生じない。</p> <p>(3) 作業員への影響 作業員への影響は生じない。 復旧作業は、定められた放射線管理要領に従い、作業計画書に沿って安全に作業を進めることにより、作業員への影響は生じない。</p> <p>(4) 他工程への影響 他工程への影響は生じない。 使用済燃料受入れ・貯蔵施設は既に操業を開始しており、独立していることから、再処理施設本体における試験運転への影響は生じない。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 対応の概要 | <p>(1) 燃料移送水中台車駆動用ワイヤの破損箇所を確認する。</p> <p>(2) 定められた手順書に従って、同ワイヤの交換作業を行う。</p> <p>(3) ワイヤ交換作業終了後、燃料移送水中台車の動作確認を行い、異常のないことを確認した後、点検作業を再開する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 公表区分 | 翌平日に公表（ホームページへ掲載） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 対応区分 | <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">(a) 運転継続しながら復旧</td> <td rowspan="5" style="text-align: center;"> 国際評価尺度 (INES) のレベル 0以下 1 2 3 4 5 6 7 (レベル2以下は工場外への影響はない) </td> <td style="text-align: right;">放射能物質の外部放出</td> <td style="text-align: right;">工場外への影響</td> </tr> <tr> <td>(b) 運転系統を切り替えて復旧</td> <td style="text-align: right;">放射能物質による汚染、被ばく等</td> <td style="text-align: right;">工場内への影響</td> </tr> <tr> <td>(c) 当該機器を停止して復旧</td> <td style="text-align: right;">日本原燃による評価: レベル0以下</td> <td style="text-align: right;">運転時監視範囲からの逸脱等</td> <td style="text-align: right;">多重防護の劣化</td> </tr> <tr> <td>(d) 当該設備を停止して復旧</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>(e) 影響範囲の設備を停止</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> | (a) 運転継続しながら復旧 | 国際評価尺度 (INES) のレベル 0以下 1 2 3 4 5 6 7 (レベル2以下は工場外への影響はない) | 放射能物質の外部放出 | 工場外への影響 | (b) 運転系統を切り替えて復旧 | 放射能物質による汚染、被ばく等 | 工場内への影響 | (c) 当該機器を停止して復旧 | 日本原燃による評価: レベル0以下 | 運転時監視範囲からの逸脱等 | 多重防護の劣化 | (d) 当該設備を停止して復旧 | | | | (e) 影響範囲の設備を停止 | | | | |
| (a) 運転継続しながら復旧 | 国際評価尺度 (INES) のレベル 0以下 1 2 3 4 5 6 7 (レベル2以下は工場外への影響はない) | 放射能物質の外部放出 | | 工場外への影響 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (b) 運転系統を切り替えて復旧 | | 放射能物質による汚染、被ばく等 | | 工場内への影響 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (c) 当該機器を停止して復旧 | | 日本原燃による評価: レベル0以下 | | 運転時監視範囲からの逸脱等 | 多重防護の劣化 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (d) 当該設備を停止して復旧 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (e) 影響範囲の設備を停止 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

本事象は当該機器停止時の保守作業中に発生したものであるため対応区分該当なし

事象概要

